

		NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
		発行人/理事長 馬場 英男	
		〒625-0036 舞鶴市浜 247 番地	
		(志摩機械三条ビル3階)	
		TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick@iris.eonet.ne.jp	
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴			
会報 91号 平成27年1月1日			
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ		http://www.redbrick.jp/	

謹 賀 新 年 皆様のお幸せをご祈念申し上げます

目 次

1 赤煉瓦ネットワーク富岡大会 報告	理事長	4 「先人の墓碑を参拝」	小野 章 氏
2 旧丸山小学校再生事業報告	理事長	5 編集後記	事務局
3 連載「我が国の近代土木遺産4」	こいけりか 氏		

1. 赤煉瓦ネットワーク富岡大会 報告 **理事長 馬場 英男 (会員No.8)**

11月8日(土)・9日(日)、群馬県富岡市で第24回「2014赤煉瓦ネットワーク富岡大会」が開催され、当法人から理事7名が参加した。今年6月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、ユネスコの世界文化遺産に登録されたのはご存じのとおりだが、さらに10月に文化審議会において「国宝」に指定するよう答申された。近代化遺産の国宝指定は初めてである。平成11(1999)年に第9回大会が富岡で開催されたが、当時は予想すらできなかった。今回の開催にご尽力いただいた大井田さんらの富岡青年会議所が長年その価値に着目し、赤れんがが写生大会やザ・シルクデーなどのイベントを開催しまちおこしを継続したことが大きい。そうした地道な活動が所有者の片倉工業(株)や富岡市役所を動かしたのであろう。

さて、初日は、ホテルアミューズ富岡で大会が開催され、1部のシンポジウムで、内藤恒平事務局長の開会、来賓の富岡市長のあいさつ、映画「日本近代化遺産の旅」放映の後、今井幹夫氏の基壇講演「世界遺産の富岡製糸場の歴史と文化」を聞いた。富岡青年会議所ほか地域の団体の活動報告があった。

最後に、事務局長より、ジャズピアニスト山下洋輔氏より、山下氏の祖父・啓次郎氏設計の奈良少年刑務所が取壊しの危機にあり、「宝に思う会」を設立することになり、赤煉瓦ネットワークに協力要請があったと、山下氏の挨拶を読み上げ報告があり、一部は閉会した。

2部の懇親会に移り、参加者全員の自己紹介の後、富岡青年会議所シニアクラブから来年開催決定の当赤煉瓦倶楽部舞鶴への大会横断幕の引継ぎ式が執り行われた。



上州電鉄高崎駅



大会一日目(9日) 一部 シンポジウム会場



二部 懇親会場



舞鶴出席者自己紹介



大会横断幕引継ぎ式 (富岡から舞鶴に)





参加者全員で記念撮影

二日目は、富岡製糸場 9 時開門に間に合うようホテルを出発したが、すでに長蛇の列が続いているのにはビックリ。世界遺産効果は抜群と感じ入った次第。以前は門前の商店街も寂れていたのに、土産物屋や飲食店のラッシュで今も改修工事が真っ盛り状況であった。二班に分かれて、特別に依頼したガイドさんの慣れた説明を受けた。多くの観光客でイベント会場のような雰囲気になり、製糸場を後にし、バスは碓井第三橋梁に、雨天で傘をさしての見学となった。通常の観光ガイドとは一味違うアプト式鉄道の技術的な説明に納得、遊歩道に整備されたアプト式鉄道跡を碓井湖まで約 1.1km 歩き、昼食場所に移動、さすがに「味の釜めし」はとても美味しかった。昼食後の遊歩道を歩いての「旧丸山変電所」までの往復 2km で、結構ハードな見学会は終了となった。



二日目(11/9) 午前9時開門待ち、長蛇の列



富岡製糸場前(大人 500 円)



二班に分かれ見学(東倉庫)



碓井第三橋梁(めがね橋)



遊歩道アプトの道



旧丸山変電所

見学会を終え、それぞれ別れを告げ、富岡を後にした。内藤さんはじめ赤煉瓦ネットワーク事務局の皆様、大井田さんはじめ富岡の皆様、大変お世話になりました。来年は舞鶴大会、しっかり準備して盛大に開催したいと考えている。

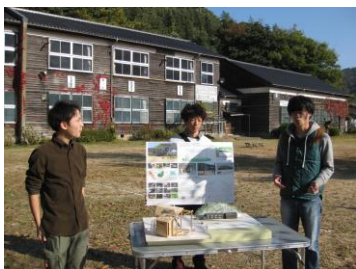
2. 旧丸山小学校で舞鶴高専生と「みんなの小屋」設置を

理事長 馬場 英男 (会員 No.8)

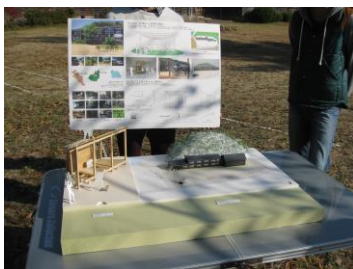
「第 16 回全国高等専門学校デザインコンペティション」が熊本県八代市で 11 月に開催され、舞鶴高専デザコン部森下グループが審査員特別賞を受賞した。最優秀賞、優秀賞に次ぐ賞に選考された。旧丸山小学校の活用をデザコンに取り上げ提案したいと、昨年 6 月に、一昨年来進めている保存再生活動に学生 3 名が参加してきた。その後、学生は当法人のほか清掃活動参加者、地元住民などから要望・意見を聞き取り制作した応募ポスターを提出し、見事予選を通過した。本選に向けた再度のヒアリングを経てプレゼンポイントを整理し、舞鶴高専初めてとなる受賞の栄に輝いた。

受賞作品名は「唯一の景色～丸山小学校活用プロジェクト～」で、コンセプトは「記憶から記憶を臨む」、校舎全体を眺める場所に配置

し・・・丸山小校舎の魅力・大切さを思い出してもらおう。校舎に寄り添い地域とつながる「みんなの小屋」を提案した。内容は『地域の方々と一緒に小屋を作るという活動を通して丸山小学校と向き合うきっかけを作る。「みんなの小屋」に集まり丸山小学校を眺め、話し合うことで活用に向けた問題解決の糸口を生み出す場とする。』である。当法人はこの提案に賛同し、今後、地元及び舞鶴市と協議を進め、「みんなの小屋」設置に向け取り組むことにしている。



舞鶴高専生によるプレゼン



本選に提案したパネル、模型



「みんなの小屋」予定箇所仮杭打ち

3. 連載「我が国の近代土木遺産 4」 ～ ドボクイサン重箱の隅 ～ こいけりか（特別会員 No.87（公財）日本交通公社）

明治34(1901)年の海軍鎮守府開庁にともない、東舞鶴地或は海軍が近代的な都市整備を行った。軍港としての港湾整備はもとより、都市河川や街路と街区といった街の構造そのものや、病院等の都市機能にも海軍が整備したものが見られる。海軍による都市整備は、鎮守府が置かれた横須賀、呉、佐世保の各都市でも行われ、いずれの街も当時の様々な施設が、所有者や管理者を変えながら現在も使われ続けている。これらの都市で、海軍が整備した生活に不可欠なインフラに上水道がある。艦船への供給や海軍工廠で使う水を確保するために、舞鶴でも海軍の専用水道として舞鶴軍港水道が整備された。

舞鶴の水道施設整備は、明治29(1896)年に海軍が与保呂川上流階に水源地を選定したことに始まり、120年近い年月を経た今日も舞鶴市民の飲料水を賄っている。舞鶴の海軍水道施設で代表的なものは、明治32(1899)～34(1901)年建設の桂取水堰堤と周辺の堰堤群、同じく鎮守府開庁に合わせて建設された北吸浄水場、日露戦争で増加した給水量に対し大正10(1921)年に整備した岸谷川下流取水堰堤等があり、いずれも国の重要文化財に指定されながら、北吸浄水場以外の施設は、現在も使用されている。



画像①下流側から見た桂取水堰堤



画像②北吸浄水場第二配水池



画像③岸谷川下流取水堰堤全景

海軍の水道施設は、堰堤の形状から細路階に至るまで様々な見どころがあり、それらは大きな特徴となっている。例えば、分かりやすい例として舞鶴の水道施設では、以下のような個所に海軍の水道施設ならではの特徴を見ることができる。



画像④桂取水堰堤のトンネル



画像⑤岸谷川下流取水堰堤のトンネル



画像⑥北吸浄水場ろみ池内の鉄管

画像④、⑤は、取水堰堤の付帯施設のトンネルでアーチの要石(キーストーン)に、画像⑥は鉄管上部に、それぞれMを2つ重ねたような文様がある。文様は海軍のシンボルである[波=海]を表している。桂取水堰堤と北吸浄水場は明治、岸谷川下流取水堰堤は大正の建設だが、いずれも波の文様が見られる。

海軍のシンボルを図案化したものは、横須賀、呉、佐世保など海軍が建設した都市の施設で見ることができる。舞鶴では見つけることができなかつたが、波だけでなく錨を図案化したもの、波と錨を組み合わせた図案等もあり、マンホール蓋等の鉄製品で比較的好く見られるものだ。舞鶴以外の都市の海軍の文様については、次回以降の記事で取り上げていきたい。

赤れんが博物館には地元(田辺藩)出身の石黒寛次(貫二)(かんじ)と彼が所属して働いた佐賀藩製錬方について解説した展示があります。

東京の青山霊園に石黒のお墓があるので先年お参りしました。霊園中央の外人墓地のすぐ東側に石黒家のつましい墓があります。彼は、1822年田辺藩士の次男として生まれ、長じて上洛し高名な蘭学者・新宮涼庭(りょうてい)(由良出身)にオランダ語を学んだあと、江戸に出て技術分野のオランダ語を習得しました。その後久留米に移り田中久重(しげひさ)宅に居住、1852年幕府の長崎海軍伝習所に参加したのち佐野常民(つねたみ)に同行して佐賀藩に移動、製錬方でオランダ語文献の翻訳を担当、田中らと協同して本邦で初めて蒸気機関車の模型を製造し走らせました。

また南北に延びる区道を挟んで東側に佐野常民と一族の墓があります。彼は佐賀藩製錬方の責任者であり、後年日本赤十字社を創設する人物です。植込みで囲まれた広めの墓です。さらに、霊園の東のはずれに近いところに田中久重と一族の墓があります。これは、敷地自体が大きく、真新しい墓碑も設置されており、別格という感じです。碑は平成19年に株東芝が設置したと刻んであります。田中久重は東芝の創業者であることから、会社のルーツを折に触れて確認する意味でかような整備を行ったものと思います。

なお、石黒寛次の墓から50mほど南に外人墓地内にゴットフリート・ワグネルの墓があります。彼は幕末に佐賀藩が招聘したドイツ人技師で、のち大学南校(東京大学の前身)などで主に陶器製作について教えました。耐火物メーカー品川リフラクトリーズ株の創業時(伊勢勝白煉瓦製造所)には、耐火煉瓦の製作を指導しています。また、京都(島津製作所など)での貢献も深く、岡崎公園(府立図書館北隣り)には大きな顕彰碑が建っています。

幕末から明治にかけて日本近代産業の勃興に尽力したこれら先人達が、くしくも同じ墓地に眠っていることは大変興味深く、おそらくあの世でもにぎやかに議論を戦わしているのかもしれない。

以上の人物達については、博物館で展示しあるいは触れておりますので、博物館へお越しの際は、ご高覧いただきますようお願いいたします。



地元田辺藩出身の石黒家(寛次)の墓



東芝創業者 田中久重翁碑



ゴットフリート・ワグネルの墓

5. 編集後記

事務局

昨年は、年4回の会報発行が出来ました。日向准副理事長、小野章理事、こいけりか特別会員の連載も始めることができました。舞鶴市内の赤煉瓦施設見学会、他市の近代化産業遺産視察旅行も多くの参加がありました。旧丸山小学校の再生活用に向けた取り組みも、地元や舞鶴市の理解も徐々に得られるようになりました。「廿日の市」で集めた募金(年間18,527円)を、(公益)日本ナショナルトラスト・「東日本大震災自然・文化遺産支援プロジェクト」に寄付金として送金しました。

9月11日に、栄えある京都創造者大賞2014を受賞したのは、会員の皆様の長年の活動とご支援の成果でした。

昨年一年注目してきたSTAP問題は、12月19日に理研が細胞存在を否定する発表し終息しました。少し残念です。

本年も、法人の目的を達成するよう地道に活動して参りたいと考えています。更なるご協力ご支援をお願いします。

会員資格： 会費納入者(特別会員は除く)。入会金1,000円、年会費(個人2,000円、法人10,000円)。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名：赤煉瓦倶楽部舞鶴